

議題1 大分県行財政改革アクションプランの最終案について

- 社会保障について、高齢者対策から子育て支援等、次世代向けの対策にシフトしたらどうか。(安藤委員)
- 国は100歳の祝い品を見直して、予算を捻出しようとしている。県も国と軌を一にして見直す余地があるのではないか。(安藤委員)
- 高齢者への祝い品のあり方について、本当に意味がある祝い品となっているか、再検討してほしい。(河野委員)
- 例えば、高齢者へ祝い金を贈る場合、子育て支援の一環になるように同居世帯を対象を絞り、3世代同居を促すなどの仕組みをつくるとトータルの社会保障費の削減につながると思う。お祝いを全面的に削減するより、残すものは残し、プラスの支援につながるよう見直してはどうか。(河津委員)
- アクションプランの進行管理はPDCAの観点から非常に重要。取組のなかで、最終年度である「31年度までに検討」という項目は、少なくとも中間年度まで検討を行い、できるものから実施する方がよい。(安藤委員)
- 外国籍の方に対する生活保護の支給について、訴訟に至ったケースもあったが、増加傾向にあるのか。(阿南委員)
- 東九州新幹線について、県の負担はどれくらいになるのか。それによって県の財政は大丈夫か。(藤内委員)
- 県立屋内スポーツ施設完成後の維持管理費が、総合体育館と比べてどうなるのか。県民の皆さんの関心事だと思う。そこまで説明があると県民の皆さんも安心すると思う。(安藤委員)